



令和8年度 学校だより 11月号

なかお



第483号

令和8年10月23日

発行者 横浜市立中尾小学校

校長 丹野 一郎

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nakao/>

地域とともに育む「防災の力」

副校長 佐藤 真之

朝夕の涼しさや風の心地よさに、秋の訪れを感じる季節となりました。10月9日には期分け式（前期と後期の節目に行われる式）が行われ、代表児童が前期で努力したことや成長したこと、後期の目標や課題について全校児童に向けて発表しました。令和8年度も折り返しを迎えました。子どもたちの更なる成長を願い、保護者の皆様や地域の皆様と連携を深めながら取り組んで参ります。引き続きご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

さて、9月27日（日）本校にて、中尾小地域防災拠点「避難所体験会」が行われました。本校の地域防災拠点では、運営委員の皆様を中心に、防災に対する高い意識のもと、年間を通して積極的な活動が行われています。年3回の避難所開設訓練をはじめ、9月27日には地域住民の皆様を対象とした避難所体験会が開催され、運営委員の皆様、地域住民、区役所関係者、本校職員合わせて約100名もの方々が参加されました。当日は、避難所運営や備蓄品の確認、防災資機材の取扱いなどを実際に体験しながら、防災について学ぶ貴重な機会となりました。



このような活動が継続されていることは、災害時の対応力向上につながるだけではありません。地域の方々同士が顔見知りとなり、「いざという時に助け合える関係」が育まれていることに大きな価値があります。大規模な災害が発生した際には、行政の支援が届くまでに時間を要することもあります。そのような状況だからこそ、日頃から培われた地域のつながりや協力体制が大きな力を発揮します。

また、学校が地域防災拠点であることは、子どもたちにとっても大変意義深いことです。避難訓練や防災学習だけでなく、地域の防災活動に触れることで、「自分の命を守る力」と「地域の一員として行動する意識」を育むことができます。防災は決して特別なことではなく、日常の延長線上にあるものであることを子どもたちは学んでいます。

学校は、子どもたちが学ぶ場であると同時に、災害時には地域の皆様の命を守る避難所にもなります。そのため、本校では地域防災拠点運営委員会や関係機関の皆様と連携しながら、防災体制の充実に努めています。こうした取組を支えてくださっている地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

災害はいつ起こるかわかりません。しかし、日頃からの備えと地域のつながりは、必ず私たちの力となります。今後も学校・家庭・地域が連携しながら、「安心して暮らせる地域」「子どもたちが安全に成長できる地域」を目指してまいります。ご家庭におかれましても、この機会に非常時の連絡方法や避難場所、備蓄品等について話し合っただければ幸いです。